

地域経済動向調査報告書

平成 28 年 10 月

西方商工会

○外部機関による調査結果を商工会の視点で分析する。

1. 外部機関が実施する調査からの情報収集

(1) 継続的に入手・更新して活用できる調査結果

① 全国レベル		
・ 『月例経済報告』	内閣府	p. 1, 2
② 北関東レベル		
・ 『月例経済報告』	内閣府	p. 3, 4
③ 栃木県レベル		
i 『栃木県商工会地区の産業別景況概要』	栃木県商工会連合会	p. 5
ii 『栃木県の基調判断』	足利銀行	p. 6
④ 栃木市レベル		
i 『工業の主要指標』	とちぎの統計情報 GD Freak!	p. 7, 8
ii 『栃木市の人口動態』		
(ii -1) 『栃木市の世帯数と人口の推移』	GD Freak!	p. 9
(ii -2) 『栃木市の高齢化率の推移』	GD Freak!	p. 9
(ii -3) 『栃木市の転入転出状況』	経済産業省内閣官房『RESAS』	p. 10
(ii -4) 『栃木市の就業者の分布』	GD Freak!	p. 11
iii 『着工建築物の動向』	GD Freak! 栃木の統計情報	p. 12

(2) 臨機に入手して活用できる調査結果

① 『TDB 景気動向調査(全国) —2016年9月調査—』	帝国データバンク	p. 13, 14
② 『TDB 特別企画』	帝国データバンク	p. 15
③ 『矢野経済研究所 プレスリリース』		p. 16
④ 『県 統計』		p. 17
⑤ 『大和総研 レポート』		p. 17

2. 分析

(1) 景気の動向	p. 18
(2) 栃木市の特性	p. 18
(3) 注目すべき業界(業種別)動向	p. 18

① 全国レベル

月例経済報告（内閣府）

	27 年 10 月	27 年 11 月	27 年 12 月
基調総括	景気は、このところ一部に弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。	景気は、このところ一部に弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。	景気は、このところ一部に弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。
個人消費	総じてみれば底堅い動きとなっている。	総じてみれば底堅い動きとなっている。	総じてみれば底堅い動きとなっている。
設備投資	総じて持ち直しの動きがみられる。	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
住宅建設	持ち直している。	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
公共投資	総じて弱い動きとなっている。	弱い動きとなっている。	緩やかに減少している。
輸出及び輸入	このところ弱含んでいる。	輸出は弱含んでいる。輸入は、おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
貿易・サービス収支	赤字は、おおむね横ばいとなっている。	赤字は、おおむね横ばいとなっている。	赤字は、おおむね横ばいとなっている。
生産	このところ弱含んでいる。	このところ弱含んでいる。	このところ弱含んでいる。
企業収益	改善している。	改善している。	改善している。
企業の業況判断	一部に慎重さがみられるものの、おおむね横ばいとなっている。	一部に慎重さがみられるものの、おおむね横ばいとなっている。	一部に慎重さがみられるものの、おおむね横ばいとなっている。
倒産件数	おおむね横ばいとなっている。	倒産件数は、おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
雇用情勢	改善傾向にある。	改善傾向にある。	改善している。
消費者物価	緩やかに上昇している。	緩やかに上昇している。	緩やかに上昇している。

	28 年 1 月	28 年 2 月	28 年 3 月
基調総括	景気は、このところ一部に弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。	景気は、このところ一部に弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。	景気は、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。
個人消費	総じてみれば底堅い動きとなっている。	総じてみれば底堅い動きとなっている。	消費者マインドに足踏みがみられるなか、おおむね横ばいとなっている。
設備投資	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。	持ち直しの動きがみられる。
住宅建設	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
公共投資	緩やかに減少している。	緩やかに減少している。	緩やかに減少している。
輸出及び輸入	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
貿易・サービス収支	赤字は、減少傾向にある。	赤字は、減少傾向にある。	黒字に転じている。
生産	このところ横ばいとなっている。	このところ横ばいとなっている。	このところ横ばいとなっている。
企業収益	改善している。	改善している。	非製造業を中心に改善傾向にある。
企業の業況判断	一部に慎重さがみられるものの、おおむね横ばいとなっている。	一部に慎重さがみられるものの、おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっているものの、このところ一部に慎重さが増している。
倒産件数	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
雇用情勢	改善している。	改善している。	改善している。
消費者物価	緩やかに上昇している。	緩やかに上昇している。	緩やかに上昇している。

	28 年 4 月	28 年 5 月	28 年 6 月
基調総括	景気は、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。	景気は、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。	景気は、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。
個人消費	消費者マインドに足踏みがみられるなか、おおむね横ばいとなっている。	消費者マインドに足踏みがみられるなか、おおむね横ばいとばっている。	消費者マインドに足踏みがみられるなか、おおむね横ばいとなっている。
設備投資	持ち直しの動きがみられる。	持ち直しの動きがみられる。	持ち直しの動きがみられる。
住宅建設	おおむね横ばいとなっている。	このところ持ち直しの動きがみられる。	このところ持ち直しの動きがみられる。
公共投資	緩やかに減少している。	緩やかに減少している。	緩やかに減少している。
輸出及び輸入	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
貿易・サービス収支	黒字は、増加傾向にある。	黒字は、増加傾向にある。	黒字は、増加傾向にある。
生産	横ばいとなっている。	横ばいとなっている。	横ばいとなっている。
企業収益	非製造業を中心に改善傾向にある。	改善傾向にあるが。そのテンポは穏やかになっている。	高い水準にあるものの、改善に足踏みがみられる。
企業の業況判断	慎重さがみられる。	慎重さがみられる。	慎重さがみられる。
倒産件数	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
雇用情勢	改善している。	改善している。	改善している。
消費者物価	緩やかに上昇している。	緩やかに上昇している。	このところ上昇テンポが鈍化している。

	28 年 7 月	28 年 8 月	28 年 9 月
基調総括	景気は、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。	景気は、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。	景気は、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。
個人消費	消費者マインドに足踏みがみられるなか、おおむね横ばいとなっている。	消費者マインドに足踏みがみられるなか、おおむね横ばいとばっている。	総じてみれば底堅い動きとなっている。
設備投資	持ち直しの動きがみられる。	持ち直しの動きがみられる。	持ち直しの動きに足踏みがみられる。
住宅建設	持ち直しの動きがみられる。	持ち直しの動きがみられる。	持ち直している。
公共投資	緩やかに減少している。	このところ底堅い動きとなっている。	このところ底堅い動きとなっている。
輸出及び輸入	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
貿易・サービス収支	黒字は、横ばいとなっている。	黒字は、横ばいとなっている。	黒字は、横ばいとなっている。
生産	横ばいとなっている。	横ばいとなっている。	横ばいとなっている。
企業収益	高い水準にあるものの、改善に足踏みがみられる。	高い水準にあるものの、改善に足踏みがみられる。	高い水準にあるものの、改善に足踏みがみられる。
企業の業況判断	慎重さが増している。	慎重さが増している。	慎重さがみられる。
倒産件数	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
雇用情勢	改善している。	改善している。	改善している。
消費者物価	このところ上昇テンポが鈍化している。	横ばいとなっている。	横ばいとなっている。

②北関東レベル

月例経済報告（内閣府）

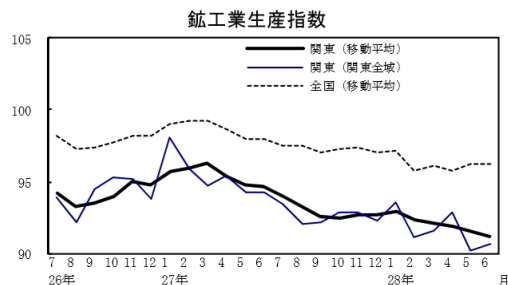
地域経済動向 北関東 （平成 28 年 8 月）

景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。	
鉱工業生産	弱含んでいる。（関東全域）	
業況判断	「良い」超幅が横ばい、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。	
設備投資	民間非居住用建設工事は増加している。	
個人消費	持ち直しの動きがみられる。	
住宅設備	<u>増加している。</u>	↓
公共投資	28 年度累計ではほぼ同水準となっている。	
雇用情勢	着実に改善している。	
企業倒産	件数は増加しているものの、負債総額は減少している。	
消費者物価指数	前年比の下落幅が拡大している。	

（注）下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

1. 生産及び企業動向

（1） 鉱工業生産



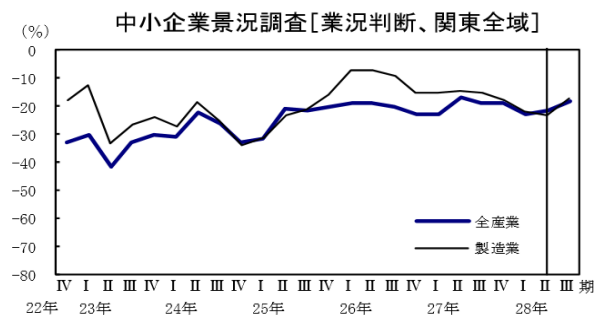
（備考） 1. 22 年＝100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び関東の太線は後方 3 か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	18.6	▲0.5	0.5	6.8	▲3.4	1.0
化学	15.1	▲0.2	—	0.3	▲8.2	—
電気機械	9.3	▲1.8	▲1.0	2.1	▲3.4	2.1
情報通信機械	6.2	▲5.2	▲3.2	▲7.6	23.0	▲12.1
生産用機械	6.1	▲0.8	▲0.9	1.2	▲0.4	▲4.9
鉱工業	100.0	▲0.6	▲1.0	1.3	▲2.8	0.4

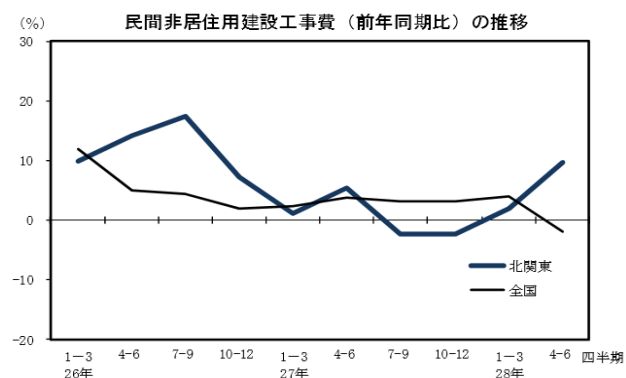
（備考） 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。
2. 4～6 月期、6 月は速報値。化学は速報値では公表されていない。

（2） 業況判断



（備考）「好転」－「悪化」回答者数構成比。28 年Ⅲは見通し。

（3）設備投資

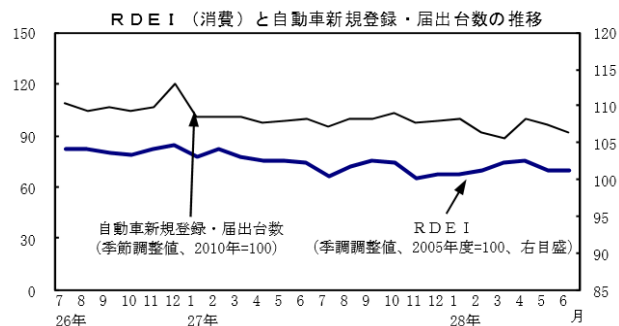


2. 需要の動向

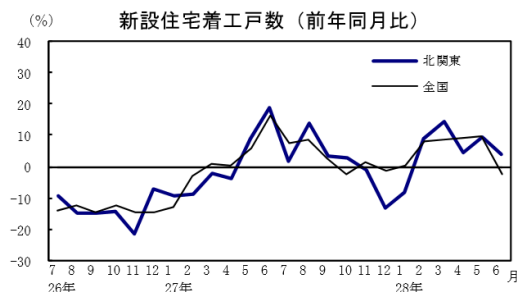
(1) 個人消費

	28年4-6月	28年4月	5月	6月
RDE I (消費※1)	0.4	0.5	▲1.4	0.0
百貨店・スーパー(※2)	1.2	2.2	▲0.4	1.8
百貨店(※2)	▲2.4	▲1.5	▲3.6	▲2.0
スーパー(※2)	1.9	3.0	0.5	2.5
コンビニ(※2)	2.9	3.6	1.8	3.3
乗用車(※3)	▲3.9	0.1	▲2.2	▲8.1
(季節調整値) (※3)	2.8	12.4	▲2.5	▲5.1

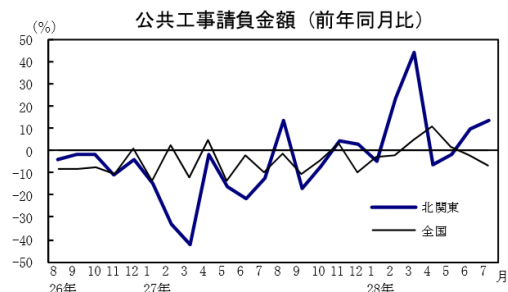
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)
 2. 店舗調整前、前年同(月)期比(新潟、静岡を含む)
 コンビニは、関東全域
 3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月比(%)))



(2) 住宅建設

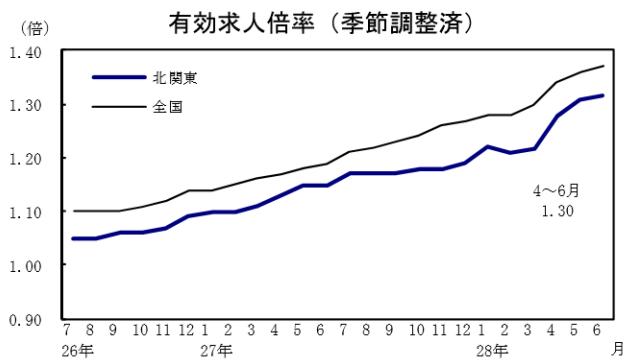


(3) 公共投資



3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢

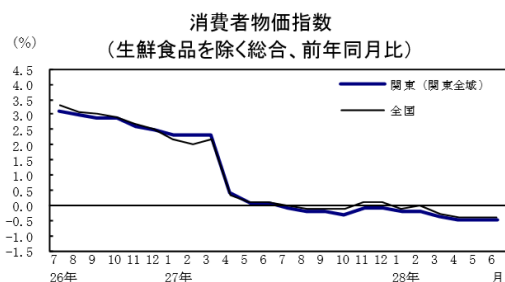


(2) 企業倒産

企業倒産	27年7-9月	10-12月	28年1-3月	4-6月	28年7月
倒産件数	130	120	136	123	38
(前年比)	▲15.6	▲14.9	▲6.8	6.0	▲22.4
負債総額	395	228	343	248	327
(前年比)	27.9	▲0.2	▲35.1	▲7.8	210.7

(件、億円、%)

(3) 消費者物価指数



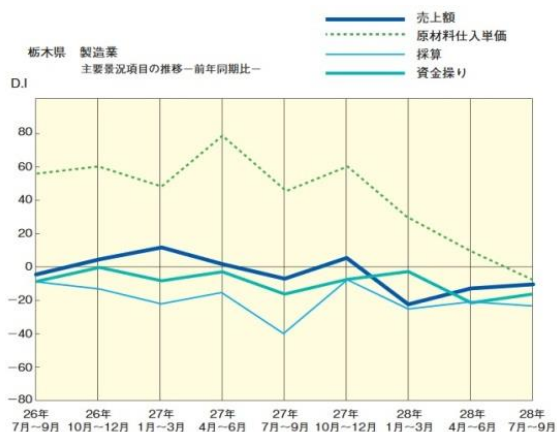
③ 栃木県レベル

(i) 栃木県商工会地区の産業別景況概要

平成28年4月～6月：報告
平成28年7月～9月：予想

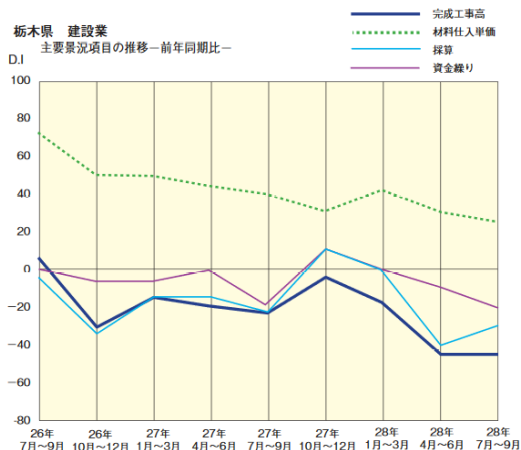
1. 製造業

資金繰りが大幅悪化、来期も低い水準が維持される予想



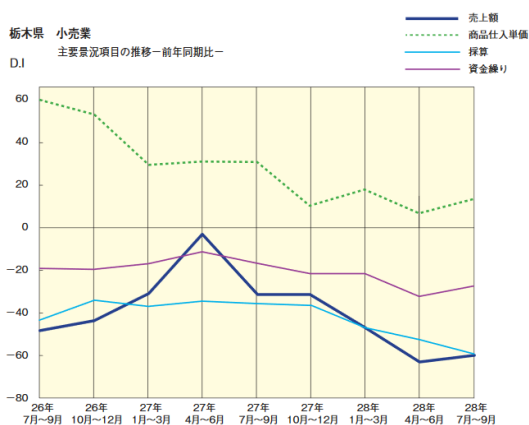
2. 建設業

各項目とも大幅に悪化、来期もさらに低下を予想



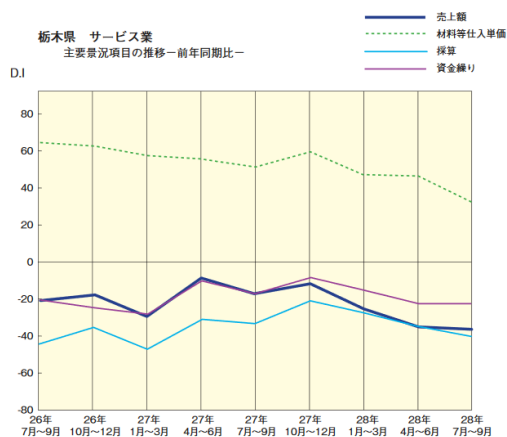
3. 小売業

各項目とも悪化傾向で推移するも、来期は小幅ながら回復に転じると予想



4. サービス業

売上額が大幅減少、来期も採算の悪化を予想

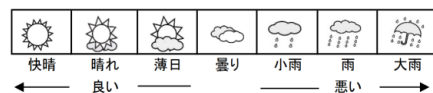


- 調査対象地区・・・栃木県下の10商工会地区（矢板市・上三川町・うつのみや市・芳賀町・壬生町・野木町・小山市美田・那珂川町・黒羽・油津上）
- 調査時点・・・平成28年6月1日
- D I 指数とは・・・Diffusion Index＝景気動向指数の略であり、各調査項目についての増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いた値を示すものである。

出典：栃木商工会連合会『第148回 中小企業景況調査報告書』

③ 栃木県レベル

(ii) 栃木県の基調判断



	27年10月	27年11月	27年12月	28年1月	28年2月	28年3月
全体	緩やかに回復しているものの、一部に弱さがみられる	緩やかに回復しているものの、一部に弱さがみられる	緩やかに回復しているものの、一部に弱さがみられる	緩やかに回復しているものの、一部に弱さがみられる	緩やかに回復しているものの、一部に弱さがみられる	緩やかに回復しているものの、一部に弱さがみられる
方向・水準	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
生産活動	横ばい圏域の動き ⇒	横ばい圏域の動き ⇒	弱さがみられる ⇒	弱さがみられる ⇒	弱さがみられる ⇒	弱さがみられる ⇒
個人消費	弱含んでいる ⇒	弱含んでいる ⇒	弱含んでいる ⇒	弱含み ⇒	弱含み ⇒	一部に弱さがみられるものの、持ち直しの兆し ⇒
住宅投資	持ち直しの兆しがみられる ⇒	持ち直しの兆しがみられる ⇒	横ばい ⇒	横ばい ⇒	横ばい ⇒	横ばい ⇒
設備投資	底堅さがみられる ⇒	底堅さがみられる ⇒	底堅さがみられる ⇒	底堅さがみられる ⇒	底堅さがみられる ⇒	底堅さがみられる ⇒
公共投資	前年比で減少 ⇒	前年比で減少 ⇒	前年比で増加 ⇒	減少している ⇒	減少している ⇒	前年水準まで戻りつつある ⇒
雇用情勢	改善している ⇒	改善テンポに一服感 ⇒	改善している ⇒	改善している ⇒	改善している ⇒	改善している ⇒
	28年4月	28年5月	28年6月	28年7月	28年8月	28年9月
全体	緩やかに回復しているものの、一部に弱さがみられる	緩やかに回復しているものの、一部に弱さがみられる	緩やかに回復しているものの、一部に弱さがみられる	緩やかに回復しているものの、一部に弱さがみられる	緩やかに回復しているものの、一部に弱さがみられる	持ち直しの動き
方向・水準	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
生産活動	弱さがみられる ⇒	弱さがみられる ⇒	弱さがみられる ⇒	持ち直しの兆しがみられる ⇒	持ち直しの兆しがみられる ⇒	持ち直しの動き ⇒
個人消費	一部に弱さがみられるものの、持ち直しの兆し ⇒	弱含んでいる ⇒	弱含んでいる ⇒	弱含んでいる ⇒	弱含んでいる ⇒	横ばい圏の動き ⇒
住宅投資	横ばい ⇒	横ばい ⇒	横ばい圏で推移している ⇒	持ち直しの兆しがみられる ⇒	持ち直しの兆しがみられる ⇒	穏やかな回復 ⇒
設備投資	底堅さがみられる ⇒	底堅さがみられる ⇒	底堅さがみられる ⇒	底堅さがみられる ⇒	一部に慎重姿勢がみられる ⇒	持ち直しの動き ⇒
公共投資	前年水準まで戻りつつある ⇒	前年水準まで戻りつつある ⇒	前年水準を下回っている ⇒	減少している ⇒	減少している ⇒	弱含みの動き ⇒
雇用情勢	改善している ⇒	改善している ⇒	改善している ⇒	改善している ⇒	改善している ⇒	穏やかな回復 ⇒

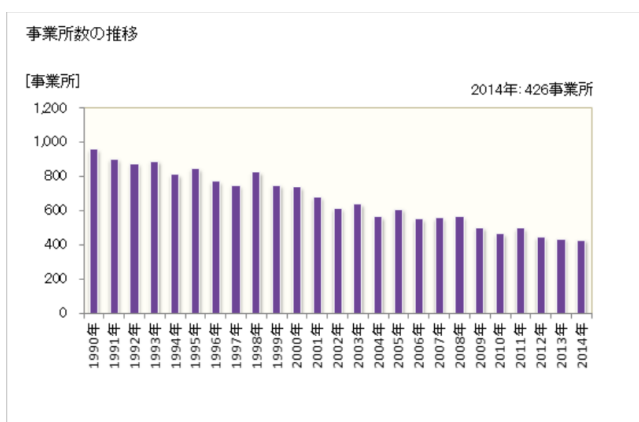
④栃木市レベル

(i) 栃木市 工業の主要指標

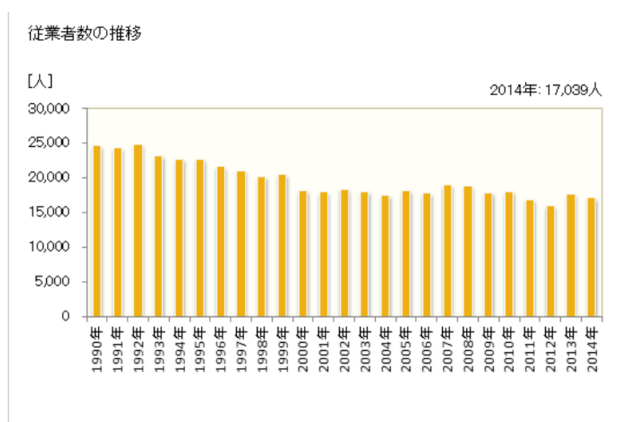
- 従業者 4 人以上の事業所数は 426 事業所で、対前年増減数は▲6 事業所で増減率は▲1.4%でした。
- 従業者数は 17,039 人でした。対前年増減数は▲518 人、増減率は▲3.0%でした。
- 製造品出荷額等は、419 億円増加し、8,982 億円でした。対前年増減率は 4.9%でした。
- 付加価値額は、151 億円増加し、4,101 億円でした。対前年増減率 3.8%でした。
- 有形固定資産投資総額は、40 億円増加し、200 億円でした。対前年増減率は 24.7%でした。

項目	単位	平成 26 年	平成 25 年	対前年	
				増減	増減率 (%)
事業所数	所	426	432	▲6	▲1.4
従業者数	人	17,039	17,557	▲518	▲3.0
製造品出荷額等	億円	8,982	8,562	419	4.9
付加価値額	〃	4,101	3,951	151	3.8
有形固定資産投資総額	〃	200	160	40	24.7

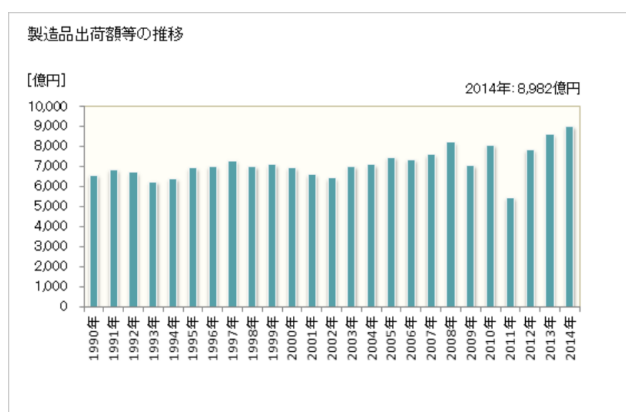
出典：とちぎの統計情報



【出所】経済産業省 工業統計（市区町村編）



【出所】経済産業省 工業統計（市区町村編）



【出所】経済産業省 工業統計（市区町村編）

出典：GD Freak! <<http://jp.gdfreak.com/>>

《参考》

調査結果の概要

○従業者 4 人以上の事業所数は 4,354 事業所で、対前年増減数は ▲84 事業所で増減率は▲1.9%でした。

○従業者数は 190,191 人でした。対前年増減数は▲2,014 人、増減率は▲1.0%でした。

○製造品出荷額等は、1,143 億円増加し、8 兆 2,938 億円でした。対前年増減率は 1.4%でした。

○付加価値額は、557 億円増加し、2 兆 6,506 億円でした。対前年増減率は 2.1%でした。

○有形固定資産投資総額は、136 億円増加し、2,388 億円でした。対前年増減率は 6.0%でした。

○都道府県別製造品出荷額等の全国順位は、第 13 位に位置しています。

本県工業の主要指標

項目	単位	平成 26 年	平成 25 年	対前年	
				増減	増減率(%)
事業所数	所	4,354	4,438	▲84	▲ 1.9
従業者数	人	190,191	192,205	▲2,014	▲1.0
製造品出荷額等	億円	82,938	81,795	1,143	1.4
付加価値額	〃	26,506	25,949	557	2.1
有形固定資産投資総額	〃	2,388	2,252	136	6.0

注) 付加価値額で従業者 4 人～29 人の事業所については粗付加価値額です。

注) 有形固定資産投資総額は従業者 30 人以上の事業所の額です。

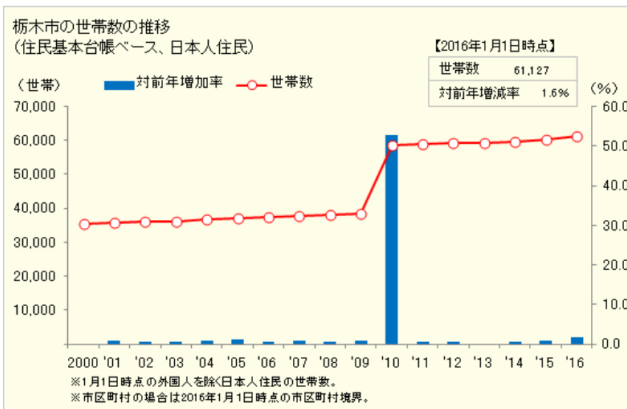
出典：とちぎの統計情報

(ii) 栃木市の人口動態

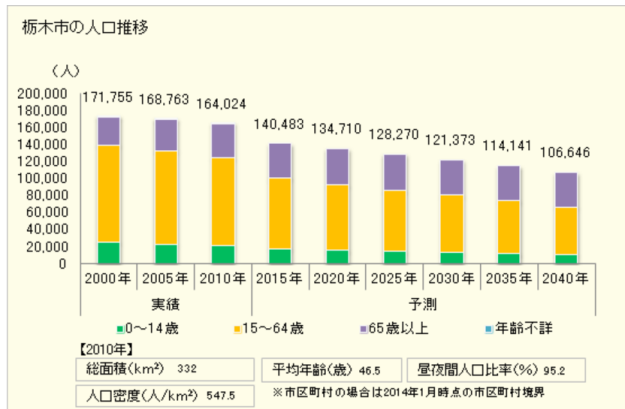
(ii-1) 栃木市の世帯数と人口の推移

2016年1月1日時点の世帯数は61,127世帯。前年からプラス1.6%、982世帯の増加。3年連続の増加。また10年前の2006年からはプラス63.9%(年率換算5.1%)、23,832世帯の増加。2016の1世帯当たり平均人員は2.6人。10年前は2.9人で、この10年間で1世帯当たり人員は0.3人減少。2010年の増加は、市町村合併によると示唆される。

栃木市の2010年の総人口は164,024人。10年前と比べると▲4.5%の減少。2010年から2040年までにはさらに▲35.0%減少し、約10.7万人となる見込み。このとき2040年の平均年齢は、2010年の46.5歳から6.4歳上昇し、52.9歳となる。



【出所】総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、総務省住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数

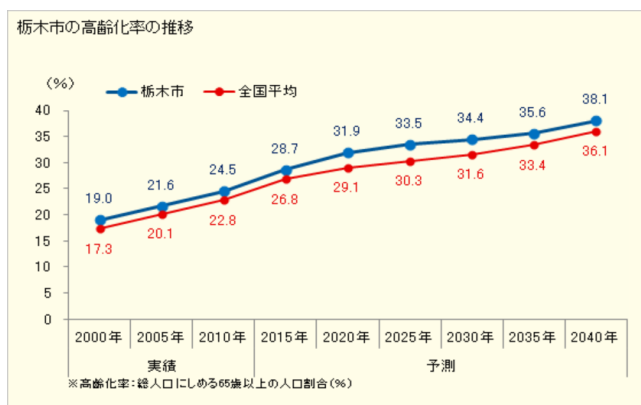


【出所】総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、総務省住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数

出典：GD Freak! <<http://jp.gdfreak.com/>>

(ii-2) 栃木市の高齢化率の推移

栃木市の2010年の総人口に占める65歳以上の割合（高齢化率）は24.5%。全国平均（22.8%）よりも1.7ポイント高い。今後、高齢化率は2040年までに13.6ポイント上昇し、38.1%に達し、およそ10人に4人が高齢者になると見込まれます。



【出所】総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、総務省住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数

出典：GD Freak! <<http://jp.gdfreak.com/>>

(ii-3) 栃木市の転入転出状況

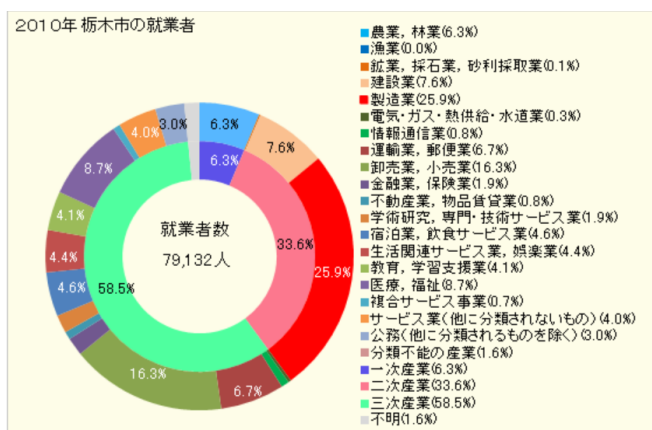
15歳～64歳の転出が多く見られるが、65歳以上では転入が多い。特に栃木県小山市からの転入が多い一方、転出は東京圏が多い。栃木県レベルでみると、転入は東北圏が一番多くみられる。



出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』

(ii-4) 栃木市の就業者の分布

2010年の全就業者数は79,132人で、その内訳（不明を除いて計算）は農林水の第一次産業が6.4%（全国：4.2%）、建設業と鉱工業からなる第二次産業が34.1%（全国：25.2%）、残り59.4%（全国：70.6%）が第三次産業となっています。全国の産業構成と比べると、第二次産業の割合が高いことが特徴です。



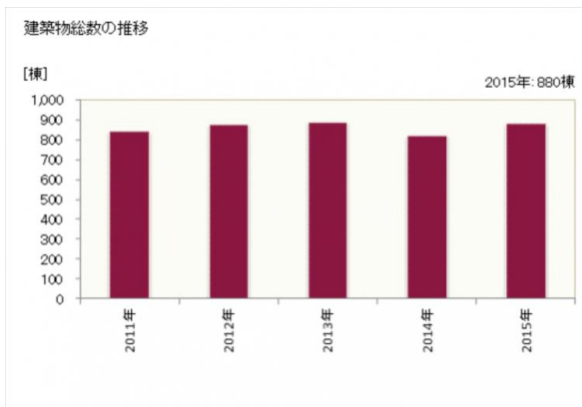
【出所】総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数

出典：GD Freak! <<http://jp.gdfreak.com/>>

④栃木市レベル

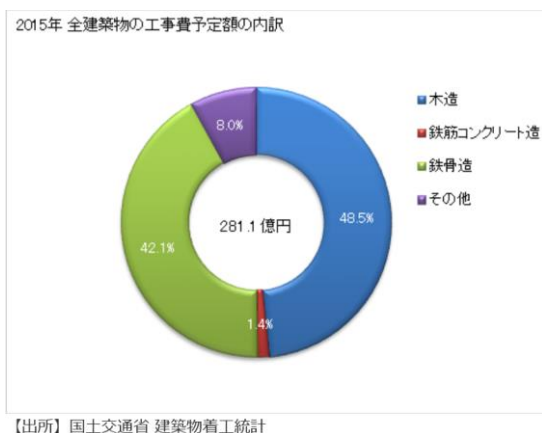
(iii) 着工建築物の動向

2015 年における栃木市の全建築物の総数は前年比 7.7%増の 880 棟。前年より増加となったのは 2 年ぶり。
全建築物の工事費予定額の合計は前年比 16.1%増の 281.1 億円。2 年連続の増加。2011 年以降で当年が最大。

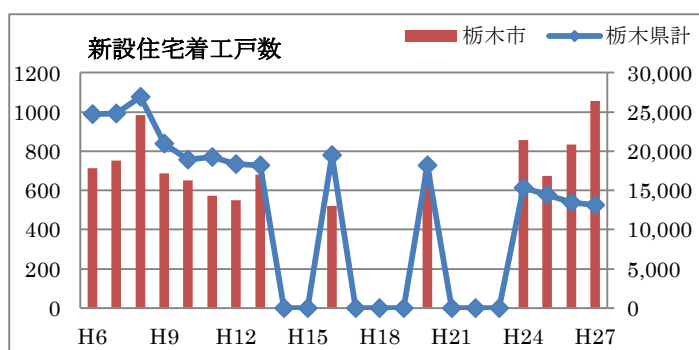


出典：GD Freak! <<http://jp.gdfreak.com/>>

2015 年における栃木市の全建築物の工事費予定額に占める割合は木造が 48.5%と最も大きく、次いで鉄骨造 42.1%、鉄筋コンクリート造 1.4%の順。これら上位 3 つで全体の 9 割以上を占める。



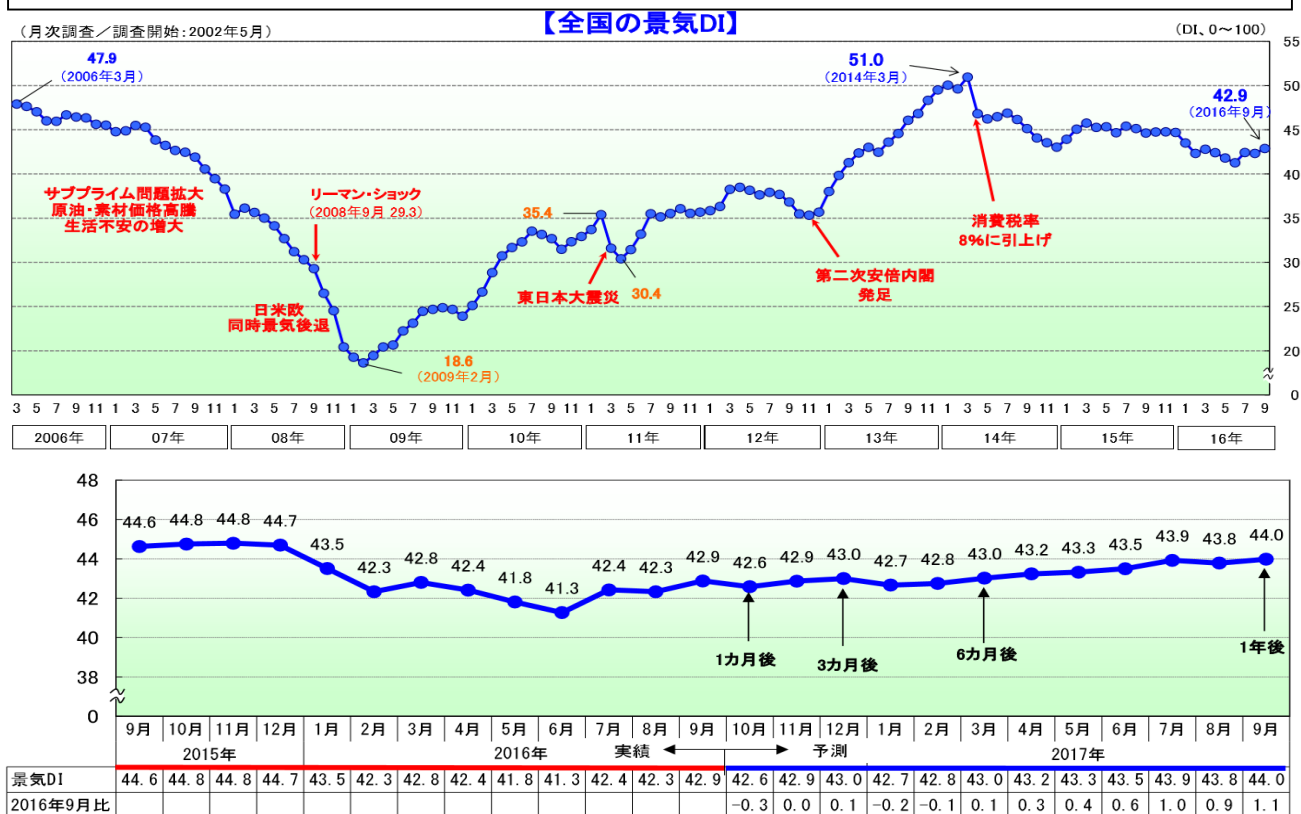
出典：GD Freak! <<http://jp.gdfreak.com/>>



出典：県・統

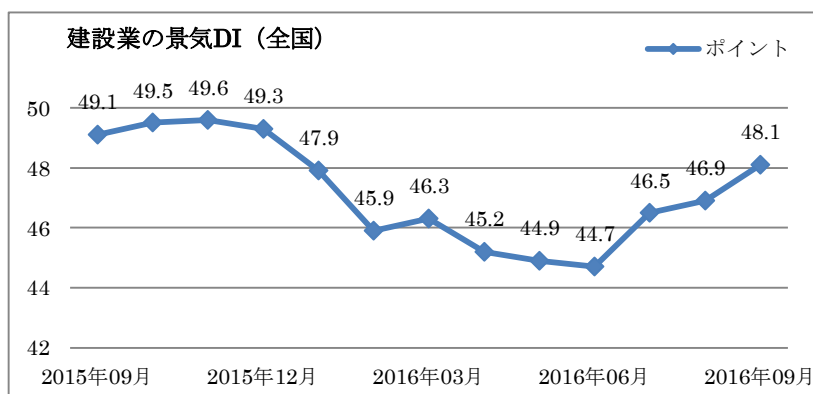
① TDB 景気動向調査（全国） —2016 年 9 月調査—

9 月の景気 DI は前月比 0.6 ポイント増の 42.9 となり 2 カ月ぶりに改善した。前月の天候不順による落ち込みから復調したことに加え、公共工事の増加で建設関連が改善した。国内景気は公的需要や住宅投資が下支え要因となり持ち直した。今後の景気は、徐々に上向いていく兆しが表れてきたものの、当面は横ばい圏内で推移していくとみられる。



■DI 算出方法 DI（ディフュージョン・インデックス〈Diffusion Index〉）は、企業による7段階の判断に、それぞれ下表カッコ内の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（％）に乗じて算出している。

前月比 1.2 ポイント増。3 カ月連続の改善。予算の前倒し執行や熊本地震の復旧工事に加え、8 月に東日本を襲った台風被害による道路や河川の復旧工事で、全国的に公共工事が活発化した。またマイナス金利を追い風に、アパートなど住宅着工も良好に推移。震災を経て耐震性などの防災機能や好立地を求める企業のオフィス移転需要が底堅いほか、五輪および訪日客向けにホテルや商業施設の改修や建設など、首都圏や地方都市で再開発案件が相次ぎ、大型ビル建設が進むなか設備工事業などで景況感が改善した。



建設業の景況感 企業の声

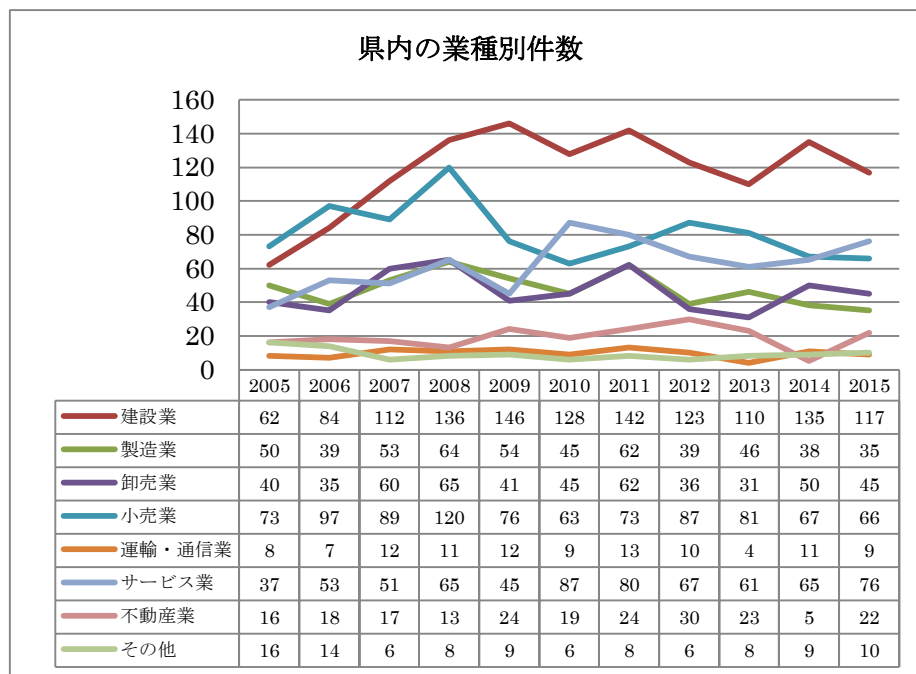
7 月	46.5	↑
8 月	46.9	↑
9 月	48.1	↑
現在	○ 台風による道路や河川の復旧作業・工事で秋枯れの心配が吹き飛んだ。土木は人材・資材とも繁忙状態。建築は引き続き手持ち工事が十分（建築工事） ○ 個人向け住宅をはじめ、アパート、マンションの需要も増大しており活況を呈している（建築工事） ○ オリンピック需要と再開発案件がようやく動き出した感がある（鉄骨工事） ○ 熊本地震における災害の本格的な復旧工事が始まり、建設業は人手不足になっている（電気配線工事） × 消費税増税の延期により、購買意欲が弱まった。高齢化により潜在的な需要は減少が続いている（木造建築工事） × 東京に一極集中している分、地方は停滞している（建築工事）	
先行き	○ 激甚災害の認定による大型工事に期待したい（土木・コンクリート工事） ○ 少なくとも 2020 年頃までは、人手不足も相まって繁忙期が続く（塗装工事） ○ 金融機関や病院関係の建物の設備投資が見込まれ、建築工事においても予定されるものが実在している（電気配線工事） × 入札案件はほぼくじ引き状態で過当競争になっている（土木工事） × 世界的な景気減速で設備投資が減少する（建築工事） × 政府主導の労働条件の是正で人件費の上昇、作業量の減少、仕事量の減少が見込まれる（一般電気工事）	

【判断理由】 ○＝良いと判断した理由 ×＝悪いと判断した理由

②TDB 特別企画： 栃木県内企業「休廃業・解散」動向調査（2015）

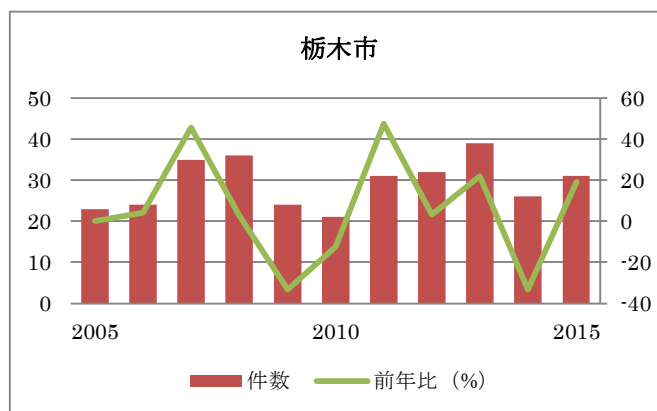
2015 年の休廃業・解散は 380 件、依然高水準

～建設業が最多の 117 社消滅～



- ◇「休廃業」とは、企業活動を停止している状態を指す。倒産とは異なり、資産が負債を上回っている状態で企業活動を停止すること。また、官公庁等に「廃業届」を提出して企業活動を終えるケースのほか、いわゆる所在不明状態にある企業も含む。
- ◇「解散」とは、企業が解散した場合を指す。主に、商業登記等で解散が確認されたケース。

2015 年（2015 年 1 月 1 日～2015 年 12 月 31 日）の栃木県内における倒産件数は 134 件となり、前年比では 45.7%の増加を示した。この伸び率は全国トップであり、全国集計が前年比 7.2%の減少に留まった中、栃木の倒産動向に関するトレンドは特異と云える。



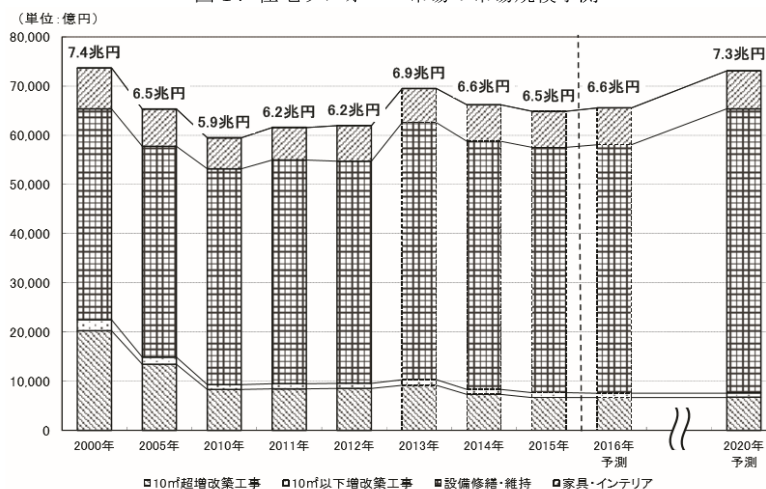
2015 年の栃木県内の休廃業・解散件数は 380 件判明し、前年との比較では同数という結果であった。2008 年のリーマン・ショックによる 482 件、2011 年の東日本大震災による 464 件など、特殊要因に起因した突出した数字はあったものの、アベノミクスによる経済活性や震災の影響が薄れつつある今日においても、企業の消滅は一日平均 1.4 件発生と依然として高い水準で推移している事に変わりはない。

③矢野経済研究所 プレスリリース： 住宅リフォーム市場に関する調査を実施（2016 年）

～ 2025 年の住宅リフォーム市場規模は 7.4 兆円、2030 年は 7.3 兆円を予測 ～

2020 年の市場規模は、7.3 兆円（2015 年比約 12%増）を予測する。住宅リフォーム市場の主要分野である「設備修繕・維持関連」分野は住宅ストック数の増加に伴って需要が拡大し、住宅リフォーム市場全体も成長すると考える。更に、国の政策の後押しやリフォーム事業者による提案強化による単価アップなどに加え、2020 年に開催される東京オリンピックに向け、国内の景気が堅調に推移することを前提とした見通しである。

図 1. 住宅リフォーム市場の市場規模予測



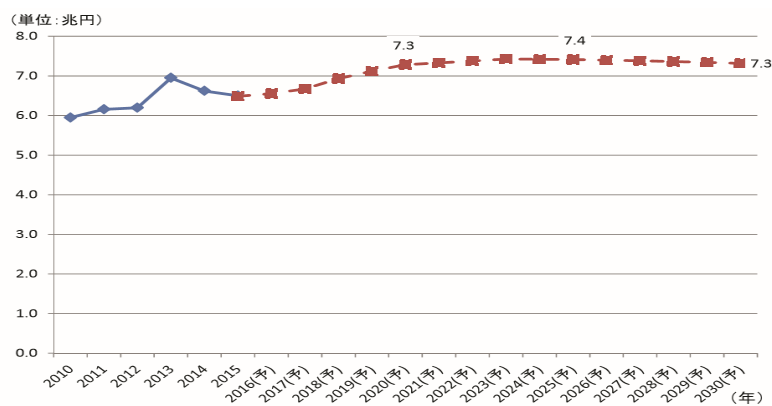
矢野経済研究所推計

注2. 国土交通省「建築着工統計」、総務省「家計調査年報」、総務省「住民基本台帳」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)」をもとに矢野経済研究所推計

注3. 2016 年、2020 年は予測値

長期的には世帯数の減少が影響し、縮小基調に向かうと予測するが、政府の政策的な後押しによるリフォーム件数増加や、リフォーム事業者による提案強化による単価アップについても加味したうえで算出をしている。

図 2. 2030 年までの市場規模の長期予測



矢野経済研究所推計

注4. 国土交通省「建築着工統計」、総務省「家計調査年報」、総務省「住民基本台帳」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)」、内閣府経済財政諮問会議「中長期の経済財政に関する試算」をもとに矢野経済研究所推計

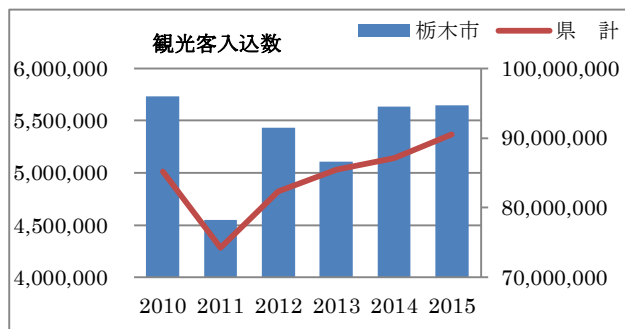
注5. 2016 年以降は予測値

④県・統計

平成 27 年（2015） 栃木県観光客入込数・宿泊数 推定調査結果

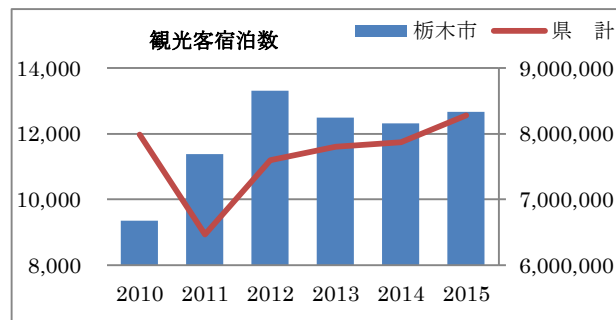
1 観光客入込数について

平成27年（2015）の観光客入込数は、9052.5万人で、前年と比較して、341.0万人の増（対前年比103.9%）となり、過去最高を更新し、初めて9,000万人を突破した。



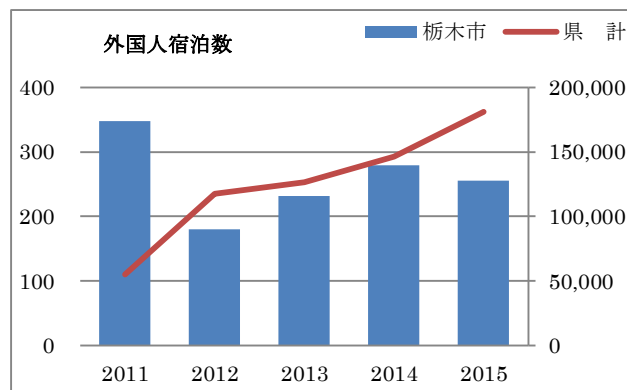
2 観光客宿泊数について

平成27年の観光客宿泊数は、827.7万人で、前年と比較して、40.2万人の増（対前年比105.1%）となり、県全体としては東日本大震災前の平成22年を超える宿泊数となったが、主要観光地である日光市や那須塩原市等では未だに震災前の水準まで回復していないなど、回復状況に地域差がある。



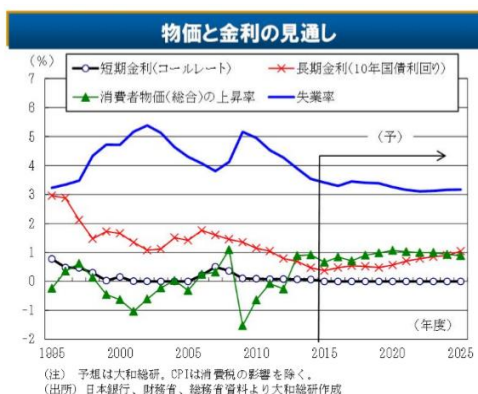
3 外国人宿泊数について

平成27年の外国人宿泊数は、18.1万人で、前年と比較して、3.5万人増加（対前年比123.8%）し、過去最高を更新した。



出典：県産業労働観光部交流課

⑤大和総研 レポート



- 景気拡大の継続を背景にインフレ率は緩やかに上昇、しかし2%のインフレ目標は未達
→ 日銀による、積極的な金融緩和の方針は変わらない
- “毎年80兆円程度の国債を購入し続ける”ことは、いずれ円滑な実施が困難な状況に
→ 政策の枠組みの変更を迫られる（黒田総裁の任期は2018年）
資産購入対象の拡張、より中長期的な政策目標への変更やインフレ目標2%に拘らない姿勢
- 2016年1月、「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入決定 ～ 欧州の前例に倣う
マイナス金利幅を拡大させる姿勢を強調 ⇔ マイナス金利適用規模（10～30兆円）の限定

出典：大和総研 日本経済中期予測（2016年2月）

2. 分析

(1) 景気の動向

国内景気は公的需要や住宅投資が下支え要因となり持ち直した。今後の景気は、徐々に上向いていく兆しが表れてきたものの、当面は横ばい圏内で推移していくとみられる。 参照 → 1. (2) ①

(2) 栃木市の特性

栃木市の将来に向けた人口推移をみると、総人口は「右肩下がり」で減少の一途をたどるが、「65歳以上」人口は、確実に増加する。今後、高齢化率は2040年までにおおよそ10人に4人が高齢者になると見込まれる。

世帯数は前年からプラス1.6%、982世帯の増加。3年連続で増加傾向にある。世帯数の増加とともに新設住宅着工戸数も3年連続で増加していることがわかる。

高齢者世帯の増加に伴い、住宅の整備が広く求められていくのではないかと見られる。

参照 → 1. (1) ④ (ii-1), (ii-2)

(3) 注目すべき業界（業種別）の動向

○リフォーム市場

政府は成長戦略の一つとしてリフォーム市場の活性化を掲げている。

住宅エコポイントや太陽光発電に代わるような何らかの政策的な後押しによるリフォーム件数増加や、リフォーム事業者による提案強化による単価アップへの取り組みが重要であると推測される。

参照 → 1. (2) ③

○訪日外国人による観光需要 等

平成20年に観光庁が発足し、以降「観光立国」のスローガンの下、訪日外国人の購買力（消費）のGDPへの貢献期待が益々高まっている。

現在 約2,000万人の訪日外国人旅行客を2020年に倍の4,000万人とする目標が掲げられている。

また、至近の動きとして、JRグループ6社と地域が協同で観光誘客に取り込む「デスティネーションキャンペーン(DC)」で2018年4月～6月の開催地域に栃木県が指定された。

これらの動きは、「観光業」「宿泊業」「運輸業」に限らず、広く全業種に取り込み得る動きである。

要はアイデア次第なのである。

参照 → 1. (2) ④

以上